

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

下記の契約は解約により終了しています。

相手方の名称	契約品目	契約内容	解約の時期
サミー株式会社	パチンコ遊技機	パチンコ遊技機の売買に関する代行店取引基本契約	平成26年4月
	パチンコ遊技機	サミー株式会社指定の代行店及びパチンコホール管理に関する業務委託契約書	平成26年4月

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものです。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間（4月－6月、以下「当第1四半期」）の概況

売上高は7,459百万円（前年同期比29.8%増）、営業損失2,509百万円（前年同期は営業損失3,829百万円）、経常損失2,254百万円（同 経常損失3,759百万円）、四半期純損失1,502百万円（同 四半期純損失2,290百万円）となりました。

業績変動の主因は、下記の通りです。

遊技機販売において、パチンコが約38,000台（前年同期比 約26,000台増）、パチスロが約5,000台（前年同期も同台数）となり、総販売台数が前年同期と比較して増加しました。当第1四半期は、前年同期と同様パチンコ1機種『ぱちんこ新鬼武者』のみの計上となりましたが、同機種の販売が堅調に推移しました。

他の事業も含め、業績の推移としては概ね計画通りの進捗となりました。

当第1四半期の主なIP（知的財産）の育成・事業化の取り組みは、下記の通りです。

当社グループは、中長期的な成長戦略として、キャラクターをはじめとするIPを主軸に置いて、取得・保有・創出したIPの価値を最大化することで持続的な成長を目指しています。これまで培ったIP開発における幅広い知見やノウハウ、クリエイティブやビジネスパートナーとのネットワークを最大限に活用し、パートナーシップに基づくIPの育成・事業化を進めています。

IPのクロスメディア展開の起点となるキャラクターやストーリーの創出では、コミックを軸に取り組んでいます。『月刊ヒーローズ』において、当第1四半期に『セーラーゾンビ』など5作品を新たに掲載し、9作品の単行本を発刊しました。

創出したIPのクロスメディア展開に向けては、映像化を中核とした取り組みに重点を置いています。『月刊ヒーローズ』から生み出された作品のうち、『ULTRAMAN（ウルトラマン）』など5作品について、アニメや映画などの企画が進行するなど、映像化の取り組みを加速させています。なかでも、漫画作品『GTO』で知られる藤沢とおる氏原作、秋重学氏作画の『ソウルリヴァイヴァー』は、米国ハリウッドの映画製作会社ベッドフォード・フォールズ・カンパニーと共同で、海外展開を視野に入れた脚本開発がスタートしました。

一方で、テレビや映画などの映像を起点とした展開も着実に推進しています。『ウルトラマン』シリーズでは、前期にスタートした新テレビシリーズを継続させ、平成26年7月より『ウルトラマンギンガS』の放送を開始、その他のさまざまな(株)円谷プロダクションのIPと合わせ、クロスメディアで展開しています。

現在、IPの収益化を担うマーチャンダイジングの分野では、ソーシャル・ゲームにおいては、リリースタイトル数を絞り、収益改善に取り組んでいます。平成26年5月にリリースした『AKB48 ついに公式音ゲーでました。』は、開始から2か月で100万ダウンロードと好調なスタートを切りました。各種グッズの展開においては、早期収益化を目指し、米国を中心に人気のキャラクター『アグリドール』などの商品化権を新たに取得し、有力企業と協働で多様な商品展開に努めています。遊技機販売においては、平成26年7月に有力商品『パチスロ 戦国BASARA 3』の販売を開始し、好調に推移しています。今後も順次、魅力ある商品を発表していく予定です。

(注) 本文に記載の商品名は各社の商標または登録商標です。

(2) 財政状態の分析

(資産)

流動資産は、35,920百万円と前連結会計年度末比31,000百万円の減少となりました。これは主に売上債権の減少によるものです。

有形固定資産は、12,376百万円と前連結会計年度末比271百万円の増加となりました。これは主に支店の新設用地取得によるものです。

無形固定資産は、4,368百万円と前連結会計年度末比2百万円の増加となりました。

投資その他の資産は、20,815百万円と前連結会計年度末比661百万円の減少となりました。これは主に投資有価証券の減少によるものです。

以上の結果、資産の部は73,481百万円と前連結会計年度末比31,387百万円の減少となりました。

(負債)

流動負債は、13,022百万円と前連結会計年度末比28,707百万円の減少となりました。これは主に仕入債務の減少及び未払法人税等の減少によるものです。

固定負債は、4,161百万円と前連結会計年度末比224百万円の減少となりました。これは主に退職給付に係る負債の減少によるものです。

以上の結果、負債の部は17,184百万円と前連結会計年度末比28,931百万円の減少となりました。

(純資産)

純資産の部は、56,297百万円と前連結会計年度末比2,455百万円の減少となりました。これは主に利益剰余金の減少によるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第1四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ10,650百万円減少し、18,933百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、8,932百万円（前年同期は9,351百万円の支出）となりました。これは主に税金等調整前四半期純損失2,264百万円、仕入債務の減少25,925百万円、売上債権の減少23,511百万円、法人税等の支払1,922百万円等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、544百万円（前年同期は1,093百万円の支出）となりました。これは主に無形固定資産の取得による支出462百万円、有形固定資産の取得による支出253百万円、貸付金の回収による収入557百万円等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、1,172百万円（前年同期は1,245百万円の支出）となりました。これは主に配当金の支払798百万円、短期借入金の返済による支出329百万円等によるものです。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。